

概要

本町は、町内の中心部を東西に貫き熊本市へ通じる唯一の幹線公共交通であるバス路線(木山⇄桜町バスターミナル(熊本市))を軸に、路線バスのネットワークが構築されている。住民生活においては町内の各種施設とともに熊本市の総合病院・大規模な商店等が町民の日常生活の重要な役割を担う中で、路線バスは、車を運転できない高齢者等を中心に生活に必要な不可欠な交通として機能している。

① 福田地区デマンド型乗合タクシー

【運行主体：熊交観光タクシー(株)、(有)光洋タクシー】

本町の交通不便地域である、福田地区及び下陳地域においては、地域間バス路線である「木山⇄桜町バスターミナル(熊本市)」系統の木山産交バス停、木山上町バス停及び惣領バス停と地区とをつなぐ福田地区デマンド型乗合タクシーを運行している。

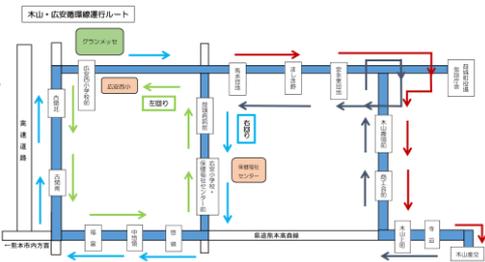
福田地区の高齢化率は34.8%、下陳地域は39.9%であり、公共交通を真に必要とする移動制約者のための公共交通サービスとなっており、地域間バス系統である「木山⇄桜町バスターミナル(熊本市)」等へ接続することで、高齢者も安心した生活を送ることができる。福田地区デマンド型乗合タクシーを確保・維持することで、住民の生活交通手段を存続させていくことが必要である。

② 木山・広安循環線乗合路線バス(左回り・右回り)

【運行主体：産交バス(株)】

平成28年4月に発生した熊本地震をきっかけに運行されてきたテクノ団地乗合路線バスは、町内仮設団地の集約や、災害公営住宅の完成などにより、住民の生活再建が進んだことから、令和2年8月より経由地および名称を変更し、木山・広安循環線乗合路線バス(フィーダーバス路線)として運行している。

木山・広安循環線乗合路線バスは、左回り・右回りの2路線となり、地域間バス路線である「木山⇄桜町バスターミナル(熊本市)」系統のバス停へ接続する形で、役場仮設庁舎および町内唯一の仮設住宅となる木山仮設団地、高齢者が47.6%にもぼる各災害公営住宅をまわるルートとなっており、地域住民の生活交通手段の維持・存続に資するものとなる。



基礎データ

合併状況：なし

人口：3.3万人（令和4年3月現在）

面積：65.68平方キロメートル

過疎地域等指定：なし

高齢化率：29.8%

補助対象の系統数：3系統(確保維持事業のみ)

自治体負担額：R2：27,601千円、R3：13,805千円、R4：14,452(確保維持事業のみ)

協議会開催数：協議会4回

計画、目標(Plan)

① 福田地区デマンド型乗合タクシー

福田地区は、大部分が公共交通不便地域であり、デマンド型の乗合タクシー事業を展開し、地域住民の生活交通確保に努めることを目標としている。

② 木山・広安循環線乗合路線バス(左回り・右回り)

平成28年熊本地震からの復旧・復興の状況および復興のための新たなまちづくり・にぎわいづくりに合わせた柔軟な交通体系の実現のため、仮設団地や災害公営住宅、町中心部をを経由するバス路線(フィーダーバス路線)の運行等について、事業者と協議を行いながら進めている。

生活交通確保維持改善計画等の取組み(Do)

令和4年3月に現在の利用者に対するヒアリング調査を実施し、運行時間の変更や指定停留所の増加について検討した。(令和4年10月より運行内容変更)

令和4年8月に、路線バスと自転車の結節機能の充実のため「益城町駐輪場整備計画」を策定した。現在整備を進めている。広報活動については、新型コロナウイルス等の影響もあり、充分に行うことができなかった。

実施状況、目標の達成(Check)

① 福田地区デマンド型乗合タクシー

目標1,400人/年に対して、437人/年と目標を下回った。新型コロナウイルス感染拡大の影響もあると考えられるが、輸送実績と目標値の差が大きいため、目標値の算出方法そのものを見直す必要がある。

② 木山・広安循環線乗合路線バス(左回り・右回り)

目標42,000人/年に対して、3,773人/年と目標を大きく下回った。新型コロナウイルス感染拡大の影響もあると考えられるが、輸送実績と目標値の差が大きいため、目標値の算出方法そのものを見直す必要がある。

今後の課題、対応(Action)

福田地区デマンド型乗合タクシー、木山・広安循環線乗合路線バスともに目標値の算出方法そのものについて再検討する。

福田地区乗合タクシーについては、令和4年10月より運行内容の見直しを実施しており、その実績や効果を注視しながら、広報活動やさらに見直しが必要な部分等についても柔軟に検討していく。広報においては、主な利用者層である高齢者にわかりやすいものを意識する。

木山・広安循環線については、引き続き、路線自体の広報活動を進めるとともに、運行内容の変更等について検討する。検討においては、都市計画事業の進捗を見ながら進める。